

設備工事情報シート	空調	Ⅱ－A－5	制 定	2007年4月1日
			改 訂	2016年3月1日
Ⅱ．メーカー情報	空調機のドレン配管		三菱電機編	

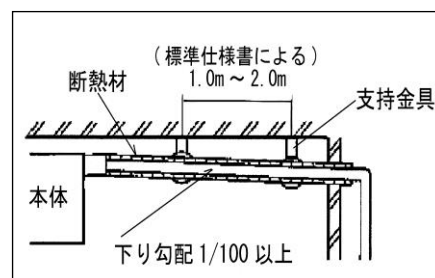
1. 目的・概要

ドレン配管工事に伴うクレームが空調機器据付不良の中でトップを占めている。その主な内容は①配管の勾配不足による漏水、②ドレン配管の詰まりによる漏水等である。漏水は僅かな量でも大きなクレームになり、その修繕費も膨大な金額になる可能性があるため特に注意が必要である。以下にビル用マルチの室内機（4方向、PLFY-EMG3形）を例にその施工要領をまとめる。

2. ドレン配管の施工要領

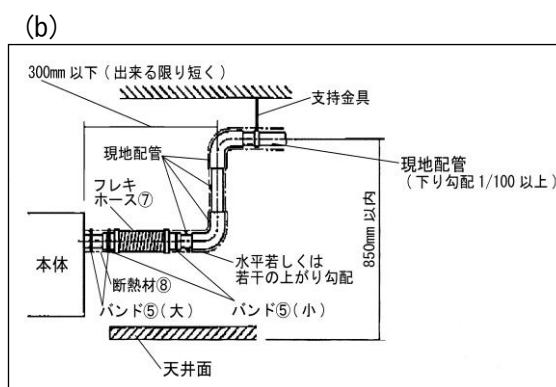
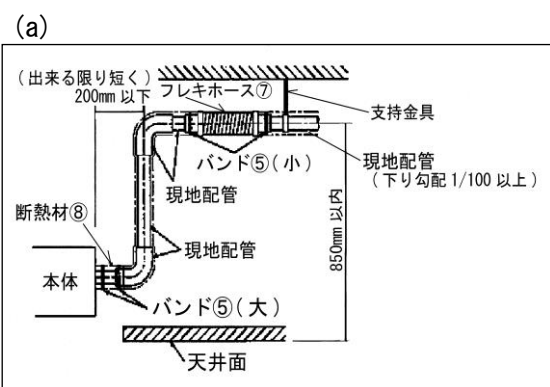
（１）一般事項

- ①ドレン配管は下り勾配1/100以上をとる。
- ②ドレン配管の吊り支持間隔は配管材質により1.0～2.0m（標準仕様書参照のこと）を確保する。
- ③ドレン配管の横引きはなるべく20m以下とする。
- ④配管途中にエア抜き、山越え、臭気トラップは設置しない。
- ⑤施工後、ドレンが排水されていることを、ユニットドレン口可視化部及びドレン配管最終出口部で確認する。
- ⑥本体と付属ドレンホースの接合部は塩ビ系接着剤にて接着し、付属のバンドで固定する。
- ⑦ドレン配管はイオウ系ガスが発生する汚水系統の排水管、排水溝には接続しない。（熱交換器の腐食、異臭の原因となる。）



（２）ドレンアップ配管

- ①付属のドレンホースの設置位置(a)、(b)はどちら側でも良いが、どちらも本体から出来る限り短くする。（参考寸法は下図参照）



- ②ドレン管の立上り高さは天井面より850mm以下とする（機種によって寸法が異なるので必ず据付工事説明書にて確認しその数値以下とする）。
- ③配管は必ず塩ビ系接着剤で接着する。（日本水道協会規格品の硬質塩化ビニル管接着剤を使用）
- ④ドレン配管は下り勾配1/100以上をとる。
- ⑤ドレン配管の吊り支持間隔は配管材質により1.0～2.0m（標準仕様書参照）を確保する。
- ⑥配管途中にエア抜き、山越え、トラップは設置しない。
- ⑦ドレンホースに無理な引張り、圧縮、荷重が掛からないようにする。
- ⑧施工後、ドレンが排水されていることを、ユニットドレン口可視化部及びドレン配管最終出口部で確認する。